

各府県市による実践報告

**「安全・安心な魅力ある学級づくり  
について～不登校・いじめへの取組～」**

**和歌山県教育庁学校教育局  
教育支援課児童生徒班**

# 安全・安心な魅力ある学級づくりの研究

～いじめの本質的な解決に向けた実践研究～

和歌山県教育委員会

## 研究の趣旨

いじめの認知件数は増加傾向にある。特に近年、低学年での増加傾向が顕著である。和歌山県としては、いじめ問題に対して、これまでの取組を続けながらも、いじめ問題の本質的な解消をめざした方策を見いだしたい。

### 研究を進めるにあたってのポイント

- 子供の各発達段階の成長の過程や特徴を明確にする。
- 子供の本質的な人間関係修復力を高める。

### 研究員としての取組として

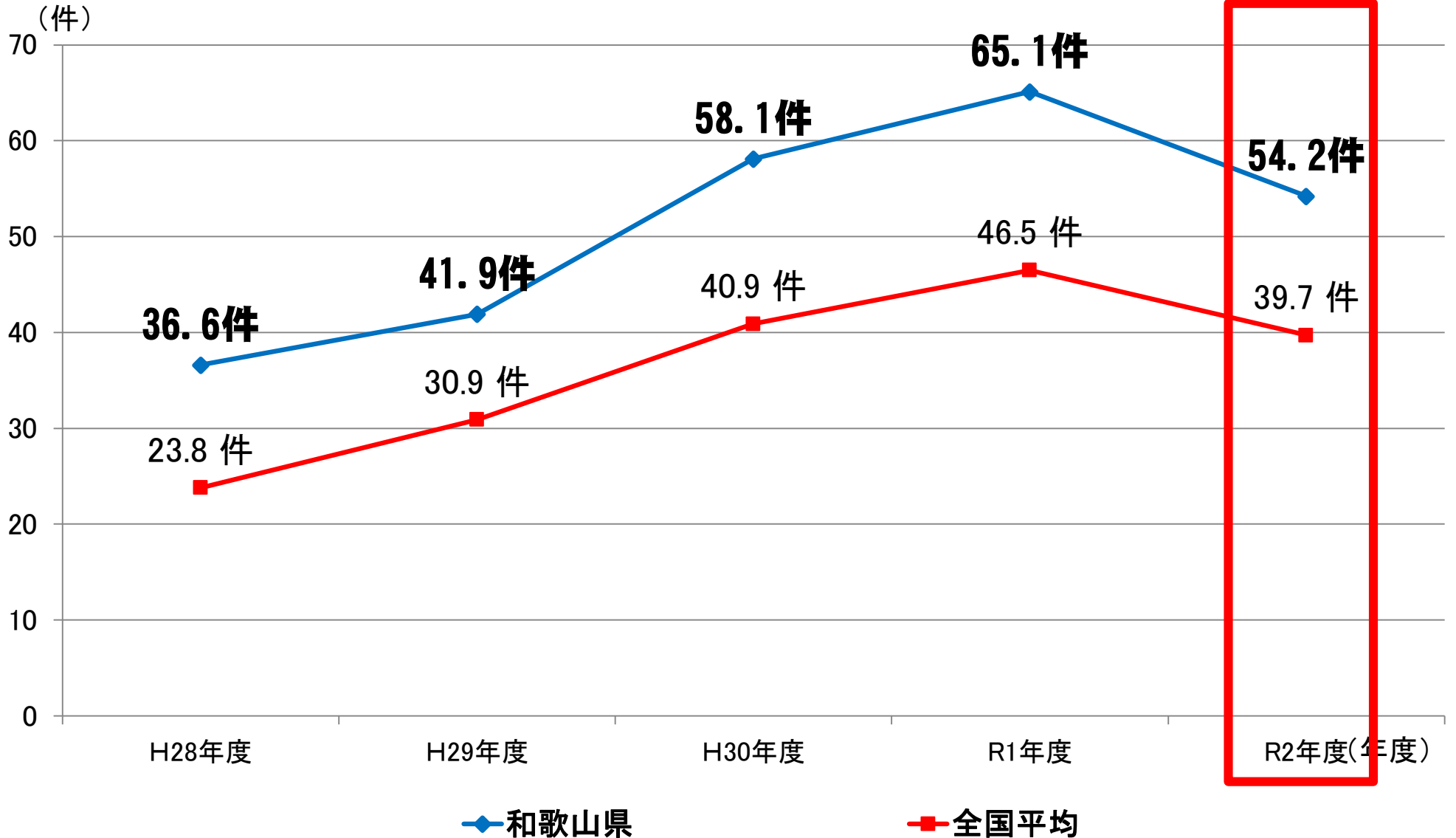
- 一人一人が、「研究を進めるにあたってのポイント」に沿って、各学級・学校の実態に応じた実践研究を行う。  
\* 在籍校の低学年での状況分析と課題把握も踏まえて行う。

### 県教育委員会の支援として

- 有識者を交えた講義・ワークショップ等による研修会を行う。
- 研究員には担当指導主事がつきます。実践や方向性で悩んだときに、相談できるよう担当の指導主事が、学校訪問・電話・電子メール等で支援します。

# 1,000人当たりのいじめ認知件数

(小・中・高・特別支援学校の国公立学校)



令和2年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より

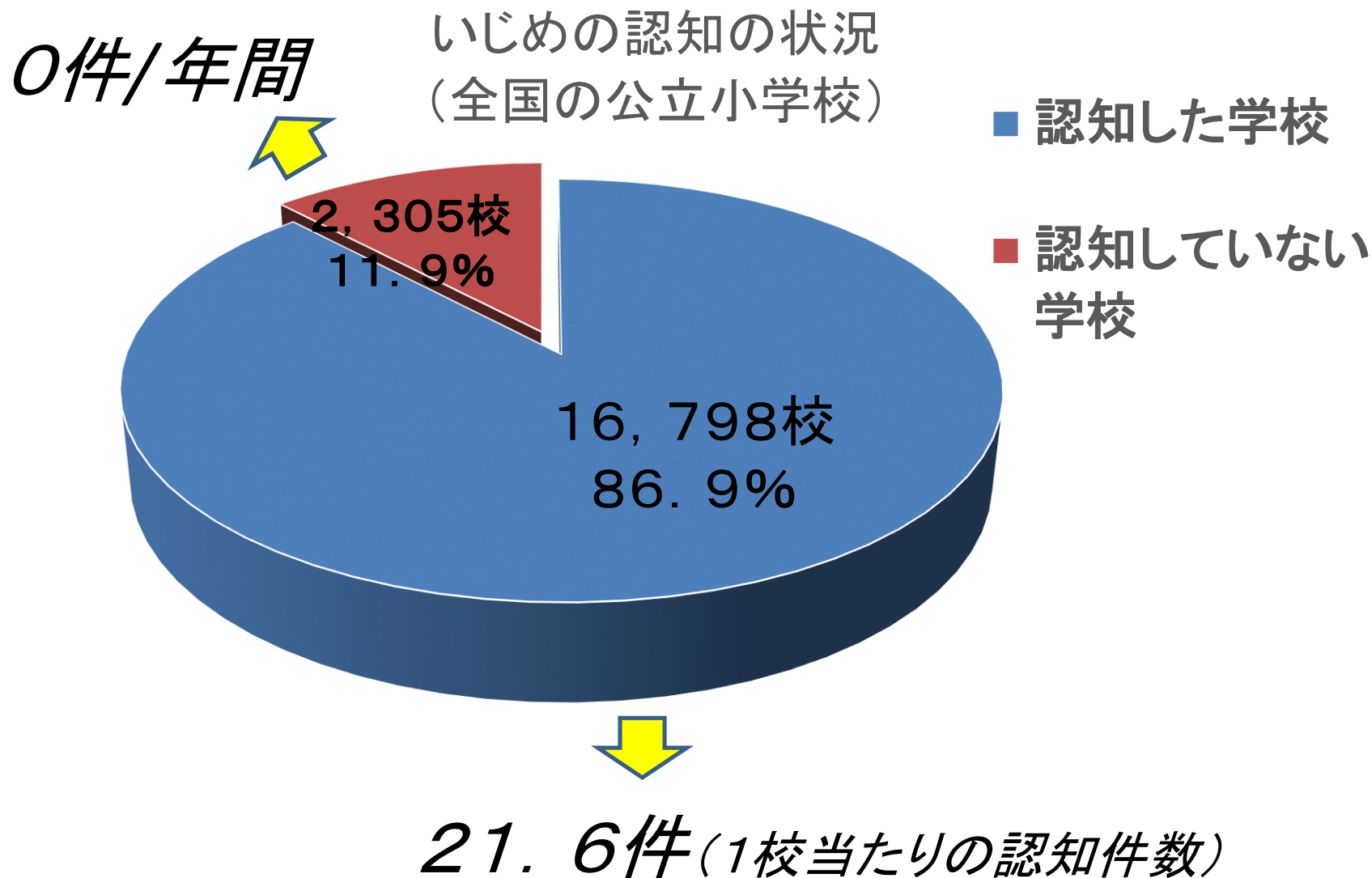
# 近隣府県の認知件数について

都道府県	いじめの認知件数(件)					1,000人当たりの認知件数(件)
	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計	
滋賀県	6,170	1,892	189	21	8,272	50.5
京都府	15,786	2,441	369	162	18,758	70.9
大阪府	38,910	5,628	385	125	45,048	50.4
兵庫県	15,098	4,423	533	141	20,195	35.2
奈良県	6,502	895	243	15	7,655	52.5
和歌山県	4,756	355	76	21	5,208	54.2

令和2年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より

# いじめ認知件数の学校間格差

(全国の公立小学校)



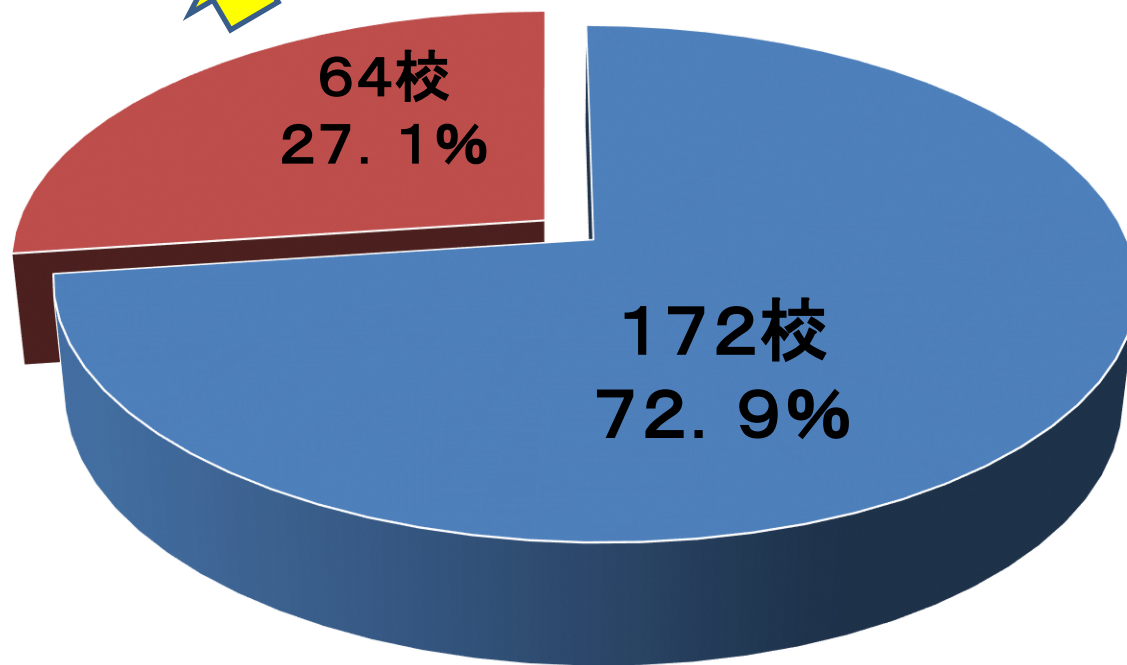
# いじめ認知件数の学校間格差

(和歌山県の公立小学校)

0件/年間



いじめの認知の状況  
(和歌山県の公立小学校)



■ 認知した学校

■ 認知していない学校



20.1件(1校当たりの認知件数)

# いじめの未然防止・再発防止に向けて

未然防止  
・  
再発防止

新

## 安全・安心な魅力ある学級づくりの研究

道徳教育 和歌山県独自の道徳教科書  
「心のとびら」「希望へのかけはし」

「学校いじめ防止基本方針」

「いじめ問題対応マニュアル」

「見逃さないで！子どものSOS」

「子どもSOSダイヤル」・「和歌山県SNS相談」の設置

スクールカウンセラーの拡充

スクールソーシャルワーカーの拡充

早期発見  
・  
適切な対応

心のケア  
・  
環境の改善



# 令和2年度 安全・安心な魅力ある学級づくりの研究

～いじめの本質的な解決に向けた実践研究～

和歌山県教育委員会

## 研究の趣旨

いじめの認知件数は増加傾向にある。特に近年、低学年での増加傾向が顕著である。和歌山県としては、いじめ問題に対して、これまでの取組を続けながらも、いじめ問題の本質的な解消をめざした方策を見出す。

### 【研究員】

いじめ問題に関心が高く、日々の実践において生徒指導、学級経営、授業等に意欲的に取り組んでいる小学校教員

### 研究員としての取組として

- 一人一人が、「研究を進めるにあたってのポイント」に沿って、各学級・学校の実態に応じた実践研究を行う。 \*在籍校の低学年での状況分析と課題把握も踏まえて行う。

### 研究を進めるにあたってのポイント

- 子供の各発達段階の成長の過程や特徴を明確にする。
- 子供の本質的な人間関係修復力を高める。

## 令和2年度の到達目標

「いじめの捉え方」「縦断的な分析の必要性」について、共通理解する。

- 第1回 令和2年10月6日 ○研究の意義、趣旨の伝達 ○取組の説明
- 第2回 令和2年11月17日 ○講義（ワークショップを含む。） ○グループ協議、質疑応答  
○「児童の発達といじめ」 立命館大学大学院 特任教授 野田 正人 氏
- 第3回 令和3年2月19日 ○ワークショップ・情報交換「安全・安心な魅力ある学級づくりについて」  
○講義・協議「弁護士が考える、本質的な「いじめ予防」の取組～いじめを生みにくい学級作りに向けて～」 中川法律事務所 弁護士 勝井 映子 氏

## いじめを生まない学級づくりの取組に向けて（研究会の成果）

### 研究員が共通認識できた、いじめを生まない「学級（居場所）」と「教師像」

#### 学級（居場所）

- 自己肯定感をもてる学級 ○違いを受け入れる学級 ○役割がある学級
- 責任感をもてる学級

#### 教師像

- 子供をつなぐ教師 ○ほめる教師 ○傾聴する教師
- 他の先生から学ぶ教師 ○一貫性のある教師 等

### 安全・安心な魅力ある学級づくりに向けた「私の一手」

- 児童一人一人が目標に向かって努力することができる学級づくり
- 学級づくりは仲間づくりから
- ペア及びグループ活動の活用 等



# 安全・安心な魅力ある学級づくりの研究

～いじめの本質的な解決に向けた実践研究～

和歌山県教育委員会

## 研究のねらい

いじめを問題行動としてだけでなく、子供の発達上の課題やサイン等として捉え、いじめ問題について低学年から縦断的に分析するなど、いじめの本質的な課題や要因を見出す。そして、開発的・予防的な生徒指導として、いじめの未然防止と再発防止につなげる効果的な指導方法の研究を行う。

令和3年度研究員の募集（4月下旬）

令和3年度研究員の決定（5月下旬）

## 第1回全体研修会（6月28日）

- 今年度の方向性と目指すところを確認
- 「いじめを生みにくい学級づくり」
- ブロック別による協議（各研究員の取組の交流等）

ブロック別研修会①（紀北ブロック9月27日と紀南ブロック10月4日でそれぞれ開催）

- 授業や行事等、実践の交流 \* 公開授業による授業者の解説とそれに係る協議
- 講師による指導・助言
- 12月のブロック別研修会までの宿題等について

## 第2回全体研修会（11月19日）

- 公開授業のビデオ等による実践の解説とそれに係る協議
- ブロック別研修会の成果の共有と課題の可視化

ブロック別研修会②（1月上旬）\*新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため未開催

- グループ協議「低学年の学級づくりへの研究員としてのアプローチについて」

## 第3回全体研修会（2月中旬）

- 実践交流、令和3年度の取組のまとめ
- 次年度に向けての「次の一手」

## 研究員の取組例

- 現時点の取組をまとめ、説明する。  
↓
- 授業等の解説を行う者も含めて、主張点が見える事例を持ち寄り、交流する。  
↓
- 全体研修の成果等を踏まえ、自らの実践を振り返る。  
↓
- 低学年でのいじめの事案等も含めた取組について、考えを深める。  
↓
- 今年度の取組をまとめ、次年度の構想を練る。

教育支援課

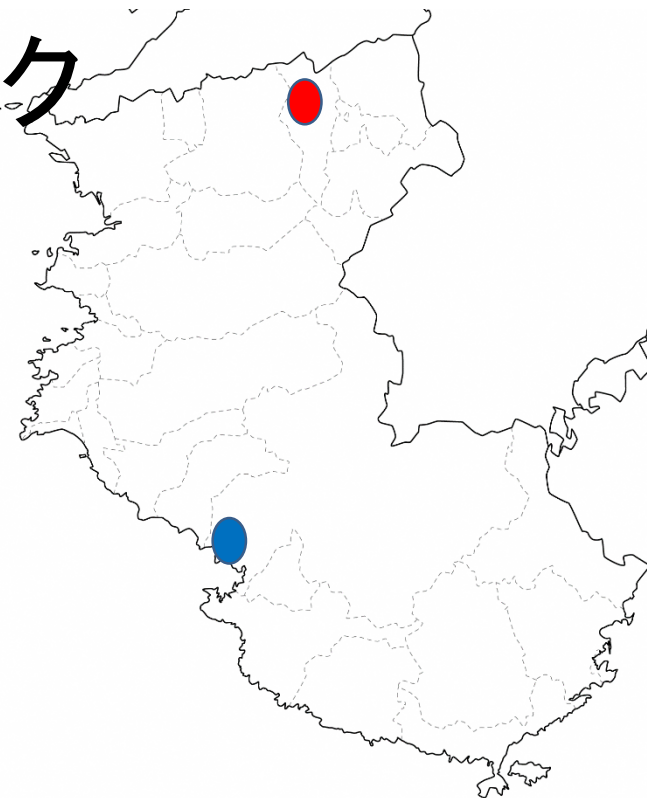
企画・運営  
支援・助言

《期待する成果》 学級が各々が活躍でき、違いを受け入れる居場所等となることで、いじめの未然防止と再発防止がすすむ。

- ①個に応じた適切な支援により、子供の人間力等（自己肯定感、人権感覚、コミュニケーションスキル、規範意識、忍耐力等）が高まる。
- ②学級や日々の授業で自他を認め合えることで、どの子供も安心して意欲的に学ぶことができる環境へつながる。

# ブロック別研修会

- 有田地方以北を紀北ブロック  
かつらぎ町立笠田小学校
- 日高地方以南を紀南ブロック  
田辺市立芳養小学校
- 地域の実態に応じた協議
- 子供の様子を介して協議



# 安全・安心な魅力ある学級づくりの研究

～いじめの本質的な解決に向けた実践研究～

和歌山県教育委員会

## 研究のねらい

いじめを問題行動としてだけでなく、子供の発達上の課題やサイン等として捉え、いじめ問題について低学年から縦断的に分析するなど、いじめの本質的な課題や要因を見出す。そして、開発的・予防的な生徒指導として、いじめの未然防止と再発防止につなげる効果的な指導方法の研究を行う。

令和3年度研究員の募集（4月下旬）

令和3年度研究員の決定（5月下旬）

## 第1回全体研修会（6月28日）

- 今年度の方向性と目指すところを確認
- 「いじめを生みにくい学級づくり」
- ブロック別による協議（各研究員の取組の交流等）

ブロック別研修会①（紀北ブロック9月27日と紀南ブロック10月4日でそれぞれ開催）  
○授業や行事等、実践の交流 \* 公開授業による授業者の解説とそれに係る協議  
○講師による指導・助言 ○12月のブロック別研修会までの宿題等について

## 第2回全体研修会（11月19日）

- 公開授業のビデオ等による実践の解説とそれに係る協議
- ブロック別研修会の成果の共有と課題の可視化

ブロック別研修会②（1月上旬）\*新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため未開催  
○グループ協議「低学年の学級づくりへの研究員としてのアプローチについて」

## 第3回全体研修会（2月中旬）

- 実践交流、令和3年度の取組のまとめ
- 次年度に向けての「次の一手」

## 研究員の取組例

- 現時点の取組をまとめ、説明する。  
↓
- 授業等の解説を行う者も含めて、主張点が見える事例を持ち寄り、交流する。  
↓
- 全体研修の成果等を踏まえ、自らの実践を振り返る。  
↓
- 低学年でのいじめの事案等も含めた取組について、考えを深める。  
↓
- 今年度の取組をまとめ、次年度の構想を練る。

教育支援課

企画・運営  
支援・助言

《期待する成果》 学級が各々が活躍でき、違いを受け入れる居場所等となることで、いじめの未然防止と再発防止がすすむ。

- ①個に応じた適切な支援により、子供の人間力等（自己肯定感、人権感覚、コミュニケーションスキル、規範意識、忍耐力等）が高まる。
- ②学級や日々の授業で自他を認め合えることで、どの子供も安心して意欲的に学ぶことができる環境へつながる。

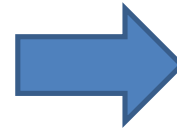
# 新たな不登校を生み出さないための取組

## 安全・安心な魅力ある学級づくりの研究

～いじめの本質的な解決に向けた実践研究～

### 研修会で話し合われてきたこと

#### 子供に必要なこと



#### 教師の手立て等

- 子供同士の意見、考えをつなげることで、子供同士がつながることが大事
- 「授業がわからない」と思っている子供を大切にすることが大事
- 教師の子供に対する理解を深める。
- 低学年から対人スキルを高める。
- どの子供にも授業で達成感をもたせる。